

【技術分類】 3 - 2 - 6 矯正治療 / 口腔内器材 / マウスピースタイプ矯正装置

【技術名称】 3 - 2 - 6 - 1 マウスピースタイプ矯正装置

【技術内容】

矯正治療において、マウスピースを利用した可撤式の矯正器具である。

材質はPMMA、シリコーン樹脂、塩化ビニルなど透明な樹脂が使用される。樹脂によりマウスピースの硬さが異なり、マウスピースの硬さが歯の移動に影響を与える。

一般的に柔らかい樹脂のマウスピースは歯を弱い力で継続的に移動させることができる。また、硬い樹脂のマウスピースは歯に強い力を与えることができるが、歯を移動させることが難しく、治療終了後のリテーナとして使用することが多い。

また最近では、歯面に接する部分を柔らかい樹脂、外側を硬い樹脂からなる二重構造のマウスピースも開発されている。

形状は歯列全体にぴったりとフィットする厚さが0.5mm程度のもので、上顎用、下顎用が用意されている。

マウスピースの作製は、現在の歯列から矯正後の歯列までの移動をシミュレーションソフトで予測し、全ての治療過程のマウスピースを一度に作製するものがある。その一方で、歯列の矯正の過程では、動き難い・易い、歯列拡大不足など予定外の歯の移動が起こる場合を考慮して、最新の咬合状態から次のステップのマウスピースを作製するものがある。

マウスピースは基本的に食事や歯磨き以外は装着するものである。約2週間ごとに次の矯正用マウスピースと交換する。矯正治療が完了するまでに10~40個使用する。

マウスピースによる矯正の特徴は従来の矯正と比較すると次のとおりである。

- ・ 審美性に優れる： 透明な樹脂製
- ・ 可撤式である： 虫歯になり難い、食事ができる、ホワイトニングができる
- ・ 装着感に優れる： 発音し易く違和感が少ない

【図】

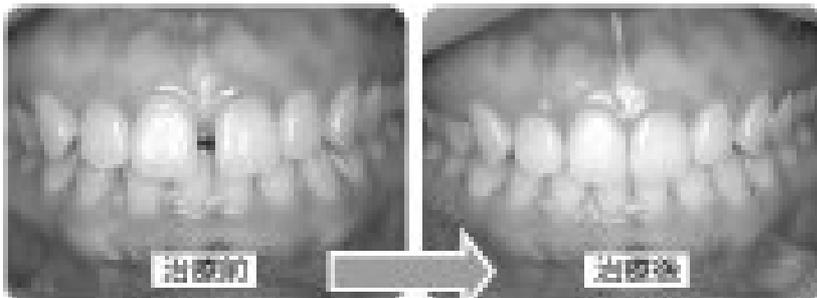
図1 マウスピースタイプ矯正器具



図2 マウスピースタイプ矯正器具の装着



図3 マウスピースタイプ矯正装置による矯正



【出典】

図1~3： 表題：「ブラケットを使わない、革新的な矯正システム」、関連箇所：「株式会社 ASO インターナショナルホームページトップ>？What's new：第四回クリアアライナーセミナー：詳しくはこちらをクリック！>Clear Aligner 実習付き特別セミナー」、著者：株式会社 ASO インターナショナル、掲載場所：株式会社 ASO インターナショナルホームページ、検索日：2007年1月17日、
アドレス：http://www.aso-inter.co.jp/what_new/clearliner_4.jpg